

令和6年度 2学年プレゼンテーションコンテストの概要

1 目的

グローバル競争が激化する今日、「欧米型」のプレゼンテーションを英語でできるようになることは、これからのビジネスパーソンにとって不可欠な能力である。英語学習をしながら、海外でも通用するプレゼンテーションの学びを融合させることが、本コンテストの狙いである。

2 プレゼンテーションコンテストのスケジュール

11月の本選に向けて、発表そのものは3分間だが、4月から半年以上かけて準備をしていく。準備の内容は大きく分けて、話す内容を考えるアウトラインやドラフトの作成とブラッシュアップ、グーグルスライドの作成、発表の自主練習、1分間フィードバックがある。これらの準備を通じて、生徒は様々なプレゼンテーションスキルも学ぶ。アイコンタクト、ジェスチャー、説得力あるプレゼンテーションスライド、キーワード、キーフレーズなどがそのスキルである。テーマもグローバルなテーマとしてSDGsから生徒自身が選んでいく。

4月	プレコンについてイントロダクション
5月	アウトライン提出締切
6月	ドラフト提出締切&フィードバック
7, 8月	発表用スライド作成と発表練習
9月	1分プレゼン（最初の1分間を教員と一緒にブラッシュアップする）
10月	1次予選（論表Ⅱのクラス内で20名中2名が選出。） 2次予選（英コミュⅡのクラス内で4名中1名が選出。）
11月	本選（体育館にて実施。）

3 生徒が選んだテーマ例

- Gender
- Education
- Mass production
- Global warming
- Environment
- Water shrtage
- Peace
- Pollution

4 ファイナリストのテーマ

1. Peace is born from help
2. We can change the future
3. What can we do for the environment?
4. ANA's initiatives for SDGs
5. Respect differences
6. To solve the problem of marine pollution
7. Ensuring Quality Education for Every Child
8. Mountain of clothes
9. We can share our hands

5 本校のプレゼンテーションの特徴について

本校のプレゼンテーションコンテストの特徴は実際にグローバル企業が、海外に派遣される社員向けに実施している研修をもとに、それを高校英語教育に取り入れたものになっている。従って生徒が大学入試、大学生活、そしてグローバル人材として社会で活躍する際にそのまま使える英語プレゼンテーションを学んでいるのが大きな特徴である。

具体的にいえば、例えばアイコンタクト。日本社会では手に紙を持ち、聴衆と目を合わせることもよりも正確に文言を読み上げることが重視される。同じことを欧米のビジネス現場でやるとどうなるか。プレゼンターは準備不足、そして知識不足だから常に紙を手を持って読み上げている、と思われてしまう。紙を読んでいる時点でその商談は失敗となる。姿勢良く、聴衆一人ひとりとアイコンタクトしながら、説明することは欧米型プレゼンテーションの基本である。

プレゼンテーションそのものとは違うが、欧米のビジネス現場での握手の話も授業内では取り上げる。我々日本人の握手はあまり強く握らないが、欧米は基本的に力強く握手する。この握手の力強さも、グローバルビジネスの現場では大切なスキル、常識の一つである。また、この握手は、一説には手に武器など何もないことを相手に示すことからきてるとも言われる。この発想から、欧米型のプレゼンテーションにおいて、両手を後ろにして話す、ということは良いとされない。基本的に手は体の前に出し、ジェスチャーを交える。

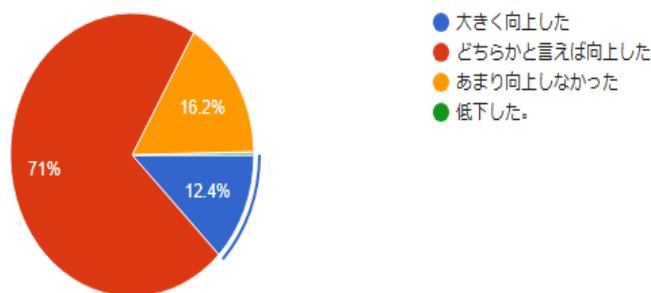
ここに紹介したことは生徒が学び、体得するほんの一部のスキルになるが、このコンテストを実施することで、生徒たちは単なる語学の学習という授業の枠を超えて、世界で通用するビジネスパーソンのスキルを手に入れ、また異文化理解の観点においても多くのことを学んでいる。

約半年という長いスパンの中で、難しいSDGsのテーマをいかに身近な話題で説明するか。一目瞭然となるグラフ等の資料をいかに集めるか。文字が大量に書いてあるスライドではなく、深く考えられ、かつシンプルなキープレーズ、キーワードを使っているか。生徒は熟慮に熟慮を重ねつつ、少人数20人の授業の特性を活かし、教員とやり取りしながら半年間かけて取り組んでいく。

決して簡単な学習ではないが、生徒が将来振り返ったときに高校であれだけ学んだのだから大丈夫だ、と思える授業、それが本校の欧米型英語プレゼンテーションの授業の特徴でありたいと考えている。

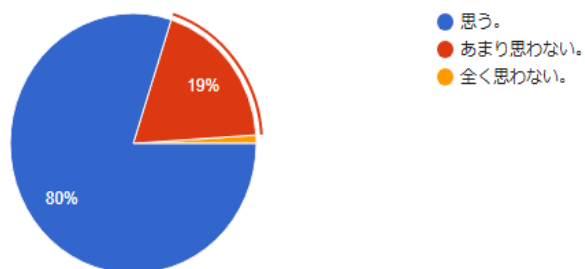
6 生徒のアンケート結果

① 約84%の生徒が英語力の向上を実感



② 8割の生徒が「将来仕事でプレゼンする

必要がある」と回答



③生徒が最も伸ばしたいと考えている英語のスキル

(1位スピーキング 2位リスニング 3位文法 4位語彙力)

